KIRYU FASHION WEEK

都内の学生、蔵を彩る

あすまで「スワップミート」

桐生の産業と文化を発信するイベント週間「桐生ファッションウイーク」（FW、実行委員会主催）は30日、前半のヤマ場を迎えた。メイン会場の有鄰館（本町二丁目）では同日、国際ファッション専門職大学（東京）の学生によるイベントが開幕。古着に新しい命を吹き込む「染め直し」の作品展や、洋服の交換会「ファッションスワップミート」、群馬大生らとのトークセッションなど、若い感性が歴史ある蔵を彩っている。学生イベントは31日まで。

染め直し作品やトークショー

29日に開幕したFW。11月7日までの10日間、有鄰館など市内各地で計19のイベントを同時多発的に展開し、ものづくりのまち桐生の「今」を見せる。

同大は今年度から桐生で「産地概論」のゼミを通年で開いている。FW初参加となる今回は、繊維産地の魅力を体験するイベント「桐生テキスタイルマンス」の一環として、学生たちがイベントを自主企画した。

有鄰館煉瓦蔵で、染色工場「桐染」（桐生市東五丁目）で体験した「染め直し」の成果物を展示。かご染めや絞り染めなど伝統的な染色方法でカラフルによみがえった古着の数々が天井からつるされ、世界に一つだけの個性を競演している。

学生らが着なくなった洋服を展示し、希望する来場者と交換する「ファッションスワップミート」も開催中。これも価値を循環・再生させる「サステナブル」をテーマにしたイベントだ。

学生トークセッションは、かき氷カフェ「彩（いろは）」（桐生市横山町）を経営する学生ベンチャー「イールド」のメンバーである地元学生と、都内の学生が討論。「内から見た桐生・外から見た桐生」を共通テーマに、30、31の両日ともに午後1時から45分間語り合う。動画サイト「ユーチューブ」でライブ配信も行う。

有鄰館ではほかに「松井ニット技研アウトレットセール」「藍と草木染の彩り展」なども開催中。FWではこのほか、織物の須裁（東五丁目）やイヅハラ産業（広沢町二丁目）、ニットの園田編織（川内町二丁目）などの企業が「オープンファクトリー」を開催している。問い合わせはFW実行委事務局（ココトモ内、電46・7486）へ。

国際ファッション専門職大学の学生による「染め直し」の作品展が始まった（有鄰館煉瓦蔵で）